

朝日Nvest グローバル バリュース株オープン (愛称:Avest-E)

◆ファンドの特色

元本確保型の商品ではありません

- ・主な投資対象 …………… 主として日本を除く世界各国の株式に投資する 朝日Nvest バリュース株型 外国株マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
- ・ベンチマーク …………… ベンチマークは定めておりません。但し、MSCI All Country World Index ex Japan(円換算ベース)を参考指数としております。
- ・目標とする運用成果 …… 信託財産の長期的な成長を目指して、運用を行います。

◆基準価額、純資産総額

基準価額	11,947円
純資産総額	500億円

◆資産構成

株式	95.98%
株式先物	0.00%
株式実質	95.98%
現金等	4.02%

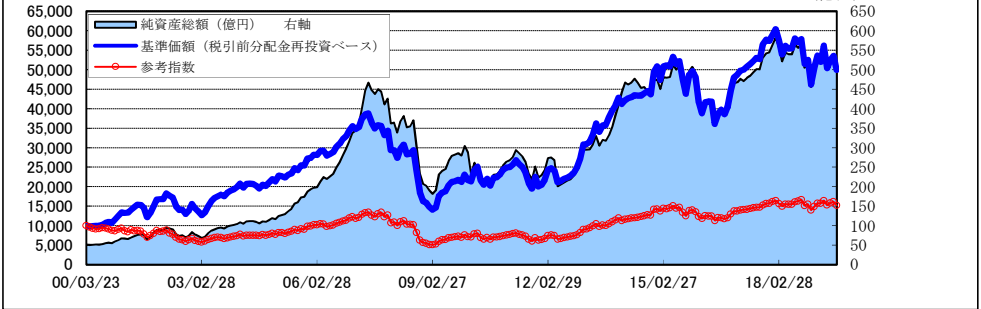
※ベビーファンドの実質組入比率(純資産総額比)

◆為替ヘッジ

為替ヘッジ比率	0.00%
---------	-------

◆基準価額の推移グラフ

- ・基準価額(税引前分配金再投資)と参考指数との比較グラフです。
- ・月末最終営業日データ(税引前分配金再投資基準価額・純資産総額)を使用しています。
- ・設定日(2000/3/24)の前営業日の基準価額と参考指数を10,000として指数化したものです。



◆ファンド(分配金再投資)と参考指数の収益率とリスク(標準偏差)

	3か月間	6か月間	1年間	3年間	5年間	10年間	設定来
ファンド収益率(分配金再投資)	-0.87%	-6.90%	-12.51%	7.90%	2.58%	8.93%	8.76%
ベンチマーク(参考指数)収益率	-0.04%	-3.02%	-6.50%	8.23%	4.02%	8.05%	2.38%
差異	-0.83%	-3.89%	-6.02%	-0.32%	-1.44%	0.89%	6.38%
ファンドリスク(分配金再投資)			26.45%	18.69%	21.01%	21.29%	21.67%
ベンチマーク(参考指数)リスク			20.58%	14.27%	16.42%	17.95%	19.01%

*ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金で当ファンドを購入(再投資)した場合の収益率です。

*収益率・リスクともに月次収益率より算出。なお設定日が月中の場合、設定日が属する月の月次収益率は含んでいません。

*収益率は期間が1年以上の場合は年率、期間が1年未満のものについては年率換算していません。

*リスクはデータを母集団の標準と見なして計算しています。

◆株式国別配分上位

国名	ファンドウェイト
1 アメリカ	54.50%
2 ドイツ	13.21%
3 スイス	10.25%
4 イギリス	7.42%
5 イタリア	4.17%
6 南アフリカ	2.66%
7 オーストラリア	2.19%
8 韓国	1.21%
9 インド	0.37%
10 -	-

※ベビーファンドの実質組入比率(純資産総額比)

◆株式業種配分上位

業種名	ファンドウェイト
1 メディア・娯楽	14.30%
2 銀行	12.53%
3 資本財	10.21%
4 自動車・自動車部品	10.19%
5 ソフトウェア・サービス	9.80%
6 各種金融	7.62%
7 テクノロジー・ハードウェアおよび機器	5.88%
8 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	4.77%
9 運輸	3.78%
10 小売	3.58%

※ベビーファンドの実質組入比率(純資産総額比)

◆株式組入上位10銘柄 (組入れ銘柄数 40)

銘柄名	ファンドウェイト	国名
1 マスターカード	5.81%	アメリカ
2 バイエル	4.77%	ドイツ
3 TEコネクティビティ	4.67%	アメリカ
4 アルファベット	4.65%	アメリカ
5 バンク・オブ・アメリカ	4.37%	アメリカ
6 クレディ・スイス・グループ	4.35%	スイス
7 ロイズ・バンキング・グループ	4.29%	イギリス
8 ゼネラル・モーターズ	4.28%	アメリカ
9 CNHインダストリアル	4.17%	イタリア
10 ダイムラー	3.55%	ドイツ

※ベビーファンドの実質組入比率(純資産総額比)

◆過去3か月間のパフォーマンス分析

過去3か月間(2019年6月~8月)の米国株式市場は、6月は、パウエルFRB(米連邦準備理事会)議長が景気拡大を持続させるためには利下げの可能性を排除しない姿勢を示したこと、トランプ大統領が月末のG20(20カ国・地域)首脳会議で習近平中国国家主席と会談すると表明したこと、ドラギECB(欧州中央銀行)総裁が追加緩和策を示唆したことなどから、上昇しました。7月は、6月末の米中首脳会議で貿易協議の再開が合意され、米国の追加関税第4弾の発動見送りとファーウェイに対する禁輸措置の一部緩和が公表されたことを好感し、上昇して始めました。その後も、米国の早期利下げ観測や、月末の米中間級貿易協議への期待、事前予想を上回る半導体大手の決算などから、底堅い動きとなりました。8月は、トランプ米大統領が中国への追加関税第4弾の発動を発表したことを受けて、下落して始めました。その後は、米国が一部製品への追加関税の発動を12月に先送りしたことなどから反発する局面もありましたが、中国やドイツの経済指標が弱かったことや、米国の追加関税に対する中国の報復措置の発表などを受けて、不安定な展開が続きました。米国市場は結局、3か月前比では上昇となりました。その他の市場では、欧州市場は上昇となりましたが、エマージング市場は小幅な下落となりました。為替市場では、円は対ドル、対ユーロとも円高となりました。過去3か月間のパフォーマンスは、円ベース参考指数が0.04%下落したのに対し、当ファンドは0.87%の下落となりました。ロイズ・バンキング・グループ(イギリス、銀行)、ダイムラー(ドイツ、自動車・自動車部品)、ライオンエア・ホールディングス(アメリカ、運輸)等がマイナスに寄りました。

- 当資料は、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 「朝日Nvest グローバル バリュース株オープン(愛称:Avest-E)」の受益権の募集については、委託会社は、金融商品取引法(昭和23年法第25号)第5条の規定により有価証券届出書を関東財務局長に提出し、その届出の効力は発生しております。
- 当資料は、確定拠出年金法第24条および関連政省令に規定されている「運用の方法に係る情報の提供」に基づき、当商品の内容をご説明するために作成されたものであり、当該投資信託の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は、株式・公社債など価値のある証券等(外貨建資産に投資する場合には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本および運用成果が保証されているものではありません。投資信託の運用による損益は、購入者に帰属します。
- 当資料は、朝日ライフ アセットマネジメント株式会社が信頼できると判断した諸データに基づいて作成しましたが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、当資料中の運用実績に関する数値等は、過去の実績であり将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- MSCIの全ての指数がMSCIの知的財産であり、その著作権はMSCIに帰属します。